

佐賀経済同友会の皆様が PLAPLA を訪問されました

7月10日、佐賀経済同友会の会員21名の皆様が、世界海洋プラスチックプランニングセンター「PLAPLA（プラプラ）」を訪問されました。



参加者の皆様は施設内のカフェで昼食をとられた後、大嶋雄治センター長による講義（約50分）と、施設の運営を担う「海の哲学ラボ」の林理事による展示解説（約40分）を通じて、海洋プラスチック問題やPLAPLAの取組について理解を深められました。



講義では、海洋プラスチック問題の現状や九州北部が海洋ごみのホットスポットとなっている背景、PLAPLA が担う研究・教育・体験・国際連携の役割などについて紹介されました。

また、PLAPLA は環境問題への対応にとどまらず、教育、研究、観光、地域振興など多面的な価値を生み出す可能性を持つ施設であり、その価値を地域や企業の皆様とともに高めていきたいとの考えが示されました。あわせて、今後の施設の発展や新たな取組の実現に向け、経済界の皆様の知見やネットワークを生かした連携への期待が語られました。

質疑応答では、「漂流する漁網は国内由来のものが多いのか、海外由来のものが多いのか」との質問があり、大嶋センター長は「原因の特定だけでなく、ごみを捨てない社会をつくるための教育や啓発など、発生を減らす取組が重要である」と説明しました。

展示解説では、海洋プラスチック問題は簡単な正解のない課題であることや、九州大学が世界をリードする研究成果、マイクロプラスチックが海洋を漂流するに至る仕組みなどを紹介しました。また、漂着ごみの回収活動に取り組む方々の声を紹介する展示や、ビーチクリーン活動、再生ワークショップを通じて、ごみの分別や資源循環、モノへの愛着を育むことの大切さについて説明しました。

最後に林理事から、海洋プラスチック問題の解決に向けて企業との連携を進めていきたいとの呼びかけがありました。

